

○言語発達遅滞 下田小 黒田裕行先生

- ・どの子にも起こりうることだなと感じました。生徒指導案件として持っていきがちな事例のように見えますが、実は個別支援が必要なお子さんであるかもしれないという目をもって校内の子どもたちを見ていければと思います。
- ・愛着障害のお子さんの事例では、手を離すタイミングが難しいと感じました。どこで手を離していいか分からずずっと支援についてしまうような気がします。
- ・愛着障害の疑いのある子はたくさんいますが、対応の仕方が分からず、悩んでいました。黒田先生が紹介してくださった、和歌山大学の米澤先生の愛着修復プログラムを見てみました。愛着修復は母親だけではなく、周囲の大人、教師でも可能ということを知り驚きました。黒田先生が、Aさんの行動を全て受け入れるのではなく、注意しながら接している姿がとても分かりました。
- ・愛着障害のチェックポイントがわかりやすかったです。愛着障害で日々奇異な行動をとる子がいて、担任がとても苦勞して支援している例があります。参考にさせていただきます。
- ・愛着障害の子との関わり方の難しさを感じていたのが、黒田先生の対応がとても勉強になった。安心できる存在になった後、実態をとらえてタイミングよく離れていく見極めを大切にしたいと感じた。
- ・先生の事例から言語指導の大切さ、また、指導者の柔軟な対応の必要性を学ばせていただいた。
- ・年々愛着障害を疑う子どもが増えていることを実感している。個によって関わり方が異なるため頭を悩ませることも多いが、発表にあったエピソードや知識は一人ひとりに寄り添った関わり方を考えていくポイントになると思い、とても参考になった。
- ・行動記録がとても細かく、先生が丁寧に大切に関わってこられたことが分かった。子どもからのあらゆる信号を見落とさない姿勢を私も学ばせていただいた。
- ・二人のお子さんは、黒田先生に丁寧に関わっていただき本当によかったと思った。子どもたちは様々な大変さを併せ持っているのも、私たち通級担当者は、いろいろな視点で子どもたちを理解できるように、研修をしていく必要があると改めて思った。
- ・自校にも同じような困り感を持った児童がいるため、愛着障害のチェックポイントや関わり方など大変参考になった。
- ・言語発達遅滞と言われるお子さんは、言語発達の問題だけでなく、その他の障害を合わせ持っていると感じられることが多々あります。その中で、愛着障害について詳しく書かれているこの資料は、日々の先生方の関わり方やお子さんの変容などがわかりやすかったです。どういう経過をたどって、どのように成長していくのかがわかるので、日々の実践がこれでよいのかと迷う自分にとって、モチベーションを保つのに役立ちます。ありがとうございました。
- ・困っている子どもたちの背景を全部受け止め、あたたかい支援を行っている様子が伝わってきました。ことばの指導はもちろんですが、様々な子どもに臨機応変に対応されている先生のおかげで、救われているお子さんがいると感じました。
- ・黒田先生のように、対象児に丁寧に寄り添うことのできる教員がいると、子どもも担任も助かると思いました。担当児童数が少ない年には、先生のような支援者になりたいと思います。
- ・愛着障害チェックポイントやストレス障害についての資料も参考になりました。
- ・愛着障害やストレス障害を抱えている子どもたちがいる中で、側にいる教員は、この子に何ができるのだろうか日々悩んでいると思います。正解がない指導の中で、黒田先生の実践はとても参考になるものでした。特に、日々の記録と子どもの変化について詳しく示してあって、その子のことを丁寧に見取ることができていると感じました。このような難しいケースの場合は、やはり、その子のことを細かく見て、気持ちに寄り添うことが大切なんだと実感しました。
- ・今回の事例では愛着障害やストレス障害の児童でした。主訴の障害以外にも複雑な事情が絡まった結

果、学校生活に適応できない状態になってしまう子がどの学校にもいると思います。先生のように、丁寧な見とりや支援をしていきたいと思いました。

- ・毎日の表れを詳細に記録されており、行動の表れに至った心の様子が良く分かる報告でした。対応の方法についても、少しずつ心が開かれて、本来の子ども能力が発揮できるように毎日関わっている様子が分かり、毎日関わる担任にも大いに参考になるとおもいました。
- ・ことばの教室の教員は、言語障害という分野の子のみならず、現実には集団や学校に適応できない子の個別指導にも日夜奮闘していることがよく分かる内容だったと思います。私も黒田先生と同じように、通級に来ていないけれども困り感いっぱいの子も達を相手に悩んでいる一人ですが、同じような思いで頑張っている仲間がいると知って心強く思いました。また、このように今までなら生徒指導に分類されそうな内容も、言語や発達という切り口でまとめてみると、新しい側面が見えてくることが分かりました。静言研の場において、このような内容が発表されたことにも大きな意義があると感じます。黒田先生、ありがとうございました。
- ・愛着障害と思われる生徒は、中学校でも見受けられます。黒田先生たちのように、幼少期から早い段階で安全地帯となる大人が存在する（存在してくれる）ことはとっても素晴らしいことです。通級担当者だからこそ気付ける、築けるものだとも思います。通級担当だけでなく、関係職員と連携を取り合い、チームとしても動いていることが推測され、いい形で子どもの環境調整ができていますね。継続して、子どもたちの見守り、見取り、見届けをお願いしたいです。頑張ってください。
- ・タイトルと内容が合っていないと思います。言語発達に問題が表れている事例が知りたかったです。言語障害を通じた指導に?でした。
- ・ことばの教室には、本当に様々な子が通ってきます。その子のアセスメントをしっかりとり、背景にある原因をつかまないと、適切な対応ができません。今回は、愛着障害とストレス障害の、通級対象でないお子さんの対応を任されたということで、貴重な実践を知ることができました。ありがとうございました。次への支援（ことばで継続指導、発達通級へ移行、支援学級へ移行、医療など）に繋げることも担当の大事な役割だと考えます。先生がこのお子さん達をどのように医療に繋げていったのか、保護者にどのように関わったのかについても、教えていただきたいと思いました。とくに、1年生児童については、これから先、どのような支援に繋げていくのか知りたいです
- ・愛着障害のチェックポイントが分かりやすかったです。愛着障害の本は読んでいますが、ADHD や ASD との区別が難しいなと思っていたのでとても参考になりました。
- ・子供に丁寧に寄り添うことで愛着形成されることを感じました。
- ・発表の文面からとても細やかなお子さんへの対応が素晴らしいなと思いました。愛着障害やストレス障害についてわかりやすく、対応もとても参考になりました。今は小さな子供たちもストレスにさらされる時代で、丁寧に関わってくれる大人の存在が不可欠だと思います。子供たちが抱えている問題が愛着障害やストレス障害からきているのであれば、発表のように慎重な対応の工夫や配慮がなければ生活していくことも難しくなってしまいます。気づく目をもつことが大切だと感じました。あらゆる可能性から子供たちのあらわれの問題点を把握できるようにしたいと思いました。
- ・学校に設置されている通級の良さを生かしての実践だと思う。学校設置だからこそ、校内児童に関わり、児童の支援に少しでもなればという気持ちで過ごしたいと思う。
- ・静言研の研修（講演など）で幅広く研修できる。その研修のおかげで、視野が広がり多くの子どもたちについて手立てが考えられるようになっていっていると実践を見てあらためて感じた。
- ・言語の発達遅滞には、障害を抱えたお子さんも含まれてくることを思うと、多岐にわたって指導を勉強していく必要性を感じています。今回の事例を見せていただき大変勉強になりました。具体的な指導例を紹介していただいたことで、即効性のある大きなヒントをいただくことができました。言語発達遅滞の指導については悩みも多いので、様々な指導事例を紹介していただき、ありがたいです。

- ・言語発達遅滞のくくりには、余りある特性をもつ児童の事例だった。
- ・言語発達遅滞（障害）は、これまで定義がとてもあいまいであり、単に「ことばが少ない」「ことばが遅く幼い」などとどまらない特性や課題を併せ持つ場合が多い。今後研究が必要だと思う。
- ・様々な子どもを正しく見立てる力、対応し指導につなげられる力量をつけていく必要がある。
- ・ていねいで地道な指導と検証がされていて参考になった。焦らず変化や子どもの気もちに寄り添うことが大切だと感じた。
- ・「愛着障害」にしても、「ストレス障害(うつ症状)」にしても、高木先生がおっしゃる「冰山モデルによる理解」が必要だと思う。表面に表れる言動の背景に抱えている要因は何なのかを把握することが、その子への正しい理解と適切な対応をするもとなるものと思われる。「愛着障害のチェックポイント」を見ると、結構、思い当たる節がある子の顔が浮かんできた。もちろん、すべてが「愛着障害」ではないにしろ、何かしらの愛情不足や承認欲求があるものとして、その子に対しての対応を考えていく必要があると思った。
- ・発達障害があると、その育てにくさもあって、愛着障害と重なってもっている子ども何人か通級していました。家庭環境が改善されることで、診断がついている子どもかなり適応は良くなったので、それぞれの障害に対する理解は大切だと感じます。愛着障害の子やストレス障害の子への関わり方がとても参考になりました。
- ・個に応じた課題から原因の究明や支援など、丁寧な記録からよくわかりました。いろいろな子に寄り添って対応されていて子どもは助かっているなと思いました。
- ・校内の特別支援コーディネーター的に通級指導教室担当者が働いている。校内通級のよさがアピールできているのではないと思う。
- ・東海四県大会の講演者、米澤先生からの学びをまとめてくださってあったのをうれしく思う。
- ・今回の実践にあげられた子どもたちは、黒田先生の適切な支援によって、落ち着いて生活ができるようになったのだと思いました。まずは、その子を知ることから始め、専門的な知識をもとに支援方法を模索していくことがその子を救う支援につながるとわかりました。それと同時に、改めて適切な支援をするためにも専門的な知識をつけていく必要があると思いました。また、子どもでもストレス障害になることがあると知りました。私も、子どもの表情や行動を観察し、寄り添った声掛けをすることも今後の指導で行っていきたいです。
- ・愛着障害とうつ状態について、事例を通して症状を具体的に知ることができただけでなく、基礎知識と結びつけて理解することができました。「発達障害と愛着障害が重なると、かけ算で増幅する」というのは、愛着障害と発達障害のどちらもの症状が増えるということでしょうか。
- ・愛着障害の症状は発達障害の症状と似ている部分もあり、その専門的な知識を高くもっていないと見極めが難しいなと感じました。学齢児童でもうつ症状が起これることを心にとどめ、児童理解を深めていきたいと思います。
- ・先生と子どもたちとのやりとりが目に浮かんでくるようだった。
- ・先生がすぐに来てくれることや、先生がまとめてくださった知識や対応の仕方の資料は、通常の学級の先生方の助けになったと思う。子どもも保護者も、先生方も安心できる存在なんだろうと思う。
- ・どのくらいの規模の学校（人数、支援ができる先生方、立場）や担任の先生と子どもとの関係など、もう少し詳しく聞きたい。
- ・R4 東海四県静岡大会の講演会は米澤好史先生。加茂地区の園、小中学校の先生方にもぜひ宣伝してください。みんなで学べるとよいと思います。
- ・先生のおっしゃる通り、背景に様々な要因を抱える（疑われる）子供達を支援することが多いです。資料を拝見していて、先生の心理学面からの解釈分析に先生の専門性やご努力を感じました。資料だけではなく 実際先生の発表を伺いたかったと思いました。
- ・愛着障害、ストレス障害児の実践でしたが、どちらにも共通しているのは、子どもに寄り添うということ。ただ、寄り添い方は様々で、子どもの状態を見取り、愛情と知識を持ってかかわることが大切

だと思った。かかわるとは、時に「あえてかかわらない→待つ（問題行動を強化しない）」ことも大切で、多方面から児童を見ていくことが大切だと感じた。子どもの居場所、安心できる環境を作る教師、児童にとって、自分を認めてくれる存在でありたいと強く思った。

- ・愛着障害のお子さんの事例はとてもショッキングでした。子供との信頼関係を築き、子供の様子やペースを見ながらスモールステップで活動をする。その子に合わせた場所での学習の大切さを感じました。教員、学校がどこまでできるのか、何ができるのか、どのタイミングで、どの教員が関わるのかを学校体制で検討・共通理解して子供を整えていくことが大切だと感じました。
- ・愛着障害についてもストレス障害についても分かりやすくまとめた資料で、大変参考になりました。理解しやすかったです。今後も単元において参考にさせていただきます。
- ・事例にあった愛着障害について今まで深く理解できていなかったが、誰にでも起こりうること、また修復は可能なこと、修復に向けての働きかけや他者との関係づくり等、具体的に書かれてあり大変勉強になった。家庭環境が関係していることも多く、背景を理解した上で段階に応じた接し方（特性理解→適切な対応を探る→少し離れる→離れて見守る）が重要なのだと知る事ができた。
- ・またストレス障害（うつ症状）についても極度の緊張状態から来るストレス、真面目な子ほど気を付けなければならないこと、励ますのではなく気持ちに寄り添うことの重要性など子どもに応じた対応法が非常に参考になった。いつもとは違う異変に早く気付くこと、してはいけないこと、してもらえると安心すること等の適切な具体例が大変勉強になり、指導の場だけではなく自分や家族の場合にも当てはまる場合があると考えさせられた。
- ・いろいろな背景を持つお子さんたちに対応しているところ共感した。
- ・これからも独りよがりにならず、巻き込んで関わろうという思いを新たにしたい。
- ・一つの理論を中核として指導していくことの、メリットやデメリットが具体的な実践例を通じて理解することができました。事例2の「ストレス障害が見られたら」の資料作成の際に、使用した参考文献などがあったら教えてほしいです。
- ・児童の行動の記録と理解、それらへの対応などが細かく書かれており、どのような実態なのかすぐに思い浮かべることができました。
- ・発達通級でも、語彙の少ないお子さん、伝えたいことをなかなか言葉にできないお子さんがたくさんいます。4年間担当をされているとのことなので、ぜひ言語発達遅滞の児童の実践報告をお聞きしたかったです。
- ・その子の言語の様子には、その背景となっている家庭環境や特性があり、多面的に子どもの様子を見ていく力が支援者には必要であると実感した。
- ・愛着障害と発達障害の違いがあるが、まさに一つ目の事例は愛着へのアプローチが求められていると感じました。担任や担当が一人で抱えこまないような体制作りが大切だと教えていただきました。
- ・愛着障害が疑われる児童に対して、少しずつ関係を深めながら、子どもに寄り添った丁寧な指導をされていることが伝わりました。愛着障害の児童が人を避けるのは、信頼関係が作れず、怒られるという不安が強く荒れる行動になること、愛着ができそうだと過度にくっつき、愛情試し行動が強くなることを理解できました。「愛着障害のチェックポイント」について、分かりやすくまとめられていて、愛着障害について理解が深まりました。
- ・毎年数名は試し行動を表すお子さんがいます。保護者の関わりの問題と言うよりは、本人の特性によりうまく感覚を受容できていないために愛着が育っていないのではと感じることも多いです。試し行動については拒絶せず、ふりまわされないことを心がけてはいますが、日々対応に悩んでいる状態です。今回先生の校内での手厚い対応を知り、このように支援してもらえると子どもにとって幸せだと感じました。
- ・1年生の行動観察を読ませていただき、黒田先生が支えることでがんばることができているAさんの姿を想像できました。不登校にならずに学級に適應できたことが素晴らしいと思いました。

- ・2つの事例それぞれ対応の仕方が異なることが分かり、個に合わせた支援の必要性を感じた。
- ・言語発達遅滞と一言で言っても、その子の背景や特性が全く異なることも多いため、言語面だけではなく、まずは、子供の特性や背景を含めたアセスメントを行い、アプローチをしていく大切さを感じた。
- ・言語発達に遅れのある子供たちの相談が増えていると感じています。愛着障害や場面緘黙の子供たちへのきめ細かな指導に感心しました。前任校で、愛着障害の児童（通級児ではなく、校内支援児童）への対応を任された際に、行動観察記録を作成しながら、手探りの中、先行条件を取り除く工夫をしたり、信頼関係の構築や共感的な受容を心掛けたり、医療機関の受診を勧めたりしました。自分一人に対応するのではなく、学校体制で対応できるような組織作りを提案したことを思い出しました。特別支援教育の専門職である通級担当職員として、校内の職員への発達支援教育への啓蒙を進めるべきだと改めて痛感しました。
- ・黒田先生がAさんに細やかに付き添い、投げ掛け、そしてそれに対するAさんのあらわれを丁寧に行動記録におこしていることがすばらしいと思いました。愛着障害と発達障害、言語障害、どれも重なる部分もあるし、違いもあって、そのあらわれがどんな部分に関係してどう対応することが適切かを判断することは難しいけれど、日々を追っていくことで解決策や対応が見えてくることもあることがわかりました。
- ・前置きに書かれていましたが、普段一緒に学びを進めている通級児の実態とはかなり違うので、通級担当がここまで深く丁寧に関わることに少し驚きました。ただ、こうしたことを知っている、実践した経験があるということは、在籍学級と個別支援の通級を結ぶ上で、メリットは大きいと思いました。
- ・愛着障害の場合、キーパーソンが比較的長いスパンで今後も関わり続けていく必要があるのかなというイメージがあります。今後の指導予定も大切になりそうだと感じました。
- ・浜松市の中でも、私たちの教室がある天竜区は片道50km以上かかる小学校があります。通級指導自体支援のソースとして考えられていない園や小学校もあると思います。啓発と共にサテライト指導の導入を推進したいと考えています。
- ・通級指導教室担当になる前に、特別支援学校で多くの愛着障害と言われる子の指導・支援にあたったので、とても興味深く資料を読ませていただきました。第4の障害と言われる愛着障害についても、今後、通級指導担当者も学んでいく必要があると感じました。
- ・一人一人の表れの後ろにあるものを見抜く力が担当者には必要なのだと思いました。愛着障害やストレス障害についてわかりやすくまとめられていて大変参考になりました。
- ・先生の実践がとてもよくまとめられ、素晴らしい実践だと思いました。
- ・愛着障害やうつ症状について、具体的なチェックポイントを示していただき、参考になる。
- ・東部の設置状況については、かつて調査対策部員として集計や要望書に携わっていた者として、少なからず知っており、あれから数年経ちましたが、片道1時間以上かかる担当地域事情は変わっていないようで、苦勞をされていると推察します。4年担当されているとのことでしたので、できれば言語発達遅滞の指導事例をお聞きしたかったのは正直なところですが、該当者がいなかったのかもしれない、と思いました。事例1・2ともに、在籍校の通級していない児童の事例でしたので、コーディネーターとしての関わりや支援についてまとめられたのだろうと解釈しました。事例1については、私ならどう見たてるだろう、と思いながら拝読しました。
- ・通級担当は、通級児童の指導だけでなく、特別支援教育に関わる知識や困り感をもつ子どもへの支援の仕方を通常学級の担任に伝えていくことも大事な役目だと改めて感じた。

・「発達に何らかの問題があると、必ずといっていいほど言語活動に影響が表れる」という言葉に納得していました。事例を読ませていただきながら、自分が指導している子の行動を見直してみようと思いました。

・通級の担当者として、これからはさらにいろいろな知識やスキルが求められるのだなと感じました。がんばって研修したいと思います。

・愛着障害は、後天的な関係性の中で起こる障害で、だれでも起こり、いつでも修復可能、発達障害と愛着障害がかさなると、掛け算で増幅するからこそ、チェックポイントを参照に相談していくことが大切だと思いました。

私たちことばの教室の指導者は、本来の言語指導だけではなく、クラスの中で不適応（いろいろな背景も含め）を起こしている児童のレスキューを行うことも期待され、実際に何人かの子供たちの対応をしてきています。教室内のじゅうたんに寝転がる子供を見るたびに黒田先生のような専門性とスキルを身につけていなくてはと感じます。黒田先生の対応の仕方が丁寧に記録されたこの発表はぜひとも対面でお聞きしたいと思いました。

ありがとうございました。

・いろいろな子と関わっていることがよく分かりました。同じような状況がどの学校にもあると思います。大変な子に関わる人（教員だけでなく）が学校の中では必要であると思います。

・一人一人、特性、性格が違う子たちの困り感をどう支援していくか、担当分野の枠を超えた関わりがどの学校にも浸透するとよいと思いました。

○子どもの行動の表れからアセスメントを的確に捉え、適切な判断と対応の様子がよく分かる内容でした。LDや言語の通級指導教室に通う子ども達は、（通級しない子ども達も）複数の障害傾向を併せ持つ場合が多いため、通級担当者には発達障害・言語障害と幅広い専門知識が求められることを改めて感じました。

○「いろいろな子供の支えになりたい。」という黒田先生を尊敬します。子供の具体的な表れを記録にとっておくことの大切さを強く感じました。

通級児以外にも支援の手を差し伸べていることが分かりました。（多分）専門外のことで、先生自身が初めてのことを学習しながら、壁を乗り越えて行っていると感じました。また、児童に対しても体当たりの指導でその情熱が伝わっていると思いました。

○子どもの行動の表れからアセスメントを的確に捉え、適切な判断と対応の様子がよく分かる内容でした。LDや言語の通級指導教室に通う子ども達は、（通級しない子ども達も）複数の障害傾向を併せ持つ場合が多いため、通級担当者には発達障害・言語障害と幅広い専門知識が求められることを改めて感じました。

○「いろいろな子供の支えになりたい。」という黒田先生を尊敬します。子供の具体的な表れを記録にとっておくことの大切さを強く感じました。